【アドミニストレーション】

ソニーマーケティング学生ボランティアファンドについて

このファンドは、大学生の社会参加への第一歩となり、また、社会をより良くしていこうとするリーダーシップの芽生えとなるようなボランティア活動を支援することを目的とし、ソニーマーケティング株式会社の提案により、日本初の全国の大学生ボランティアを対象とするファンドとして2001年から始まった。当初より本学ボランティアセンターが事務局を担当させていただいている。発足から10年を経過し、当ファンドも軌道に乗り、関係各所からの高い評価を得ている。（ソニーマーケティング学生ボランティアファンドのＨＰ　http://www.sony.jp/CorporateCruise/Volunteer/index.html）

今回は第12回目の募集となり、前回に引き続きＡコース（助成金25万円を上限）およびＢコース（助成金10万円を上限。こちらのコースは、新たにボランティア活動を始めようというグループや比較的費用のかからない活動規模の小さなグループにも助成をしようという考えのもと設けられている）を設定し、2012年10月10日～11月12日に募集を行った。審査では、前年同様「学生ならではの企画であるか」「企画が自己満足に終わっていないか､プログラムに社会性はあるか」「活動のユニークさ、チャレンジ性」「企画内容に計画性はあるか」「これまでにないような新規性はあるか」「ファンドが有効に生かされるか」の６つを評価基準とし、応募総数83団体の中から、予備審査、本審査を経て、Ａコース19団体、Ｂコース７団体、合計26団体が助成対象として決定された。採用された大学は、国立大学３大学、公立大学４大学、私立大学15大学の合計22大学であった。分野別の応募状況としては、昨年同様に東日本大震災が一番多かった。次いで国際支援、ボランティア振興の順であった。東日本大震災は活動の目的が緊急支援から復興へとシフトするとともに継続を意識して活動を行っている印象を受けた。海外活動に目を向けると地域としては大半が東南アジアとなり、フィリピン、カンボジア、インドネシアの順となっている。国内、海外ともに行政の手が及ばないところへの支援に目を向けたテーマが目立った。また、過去に当ファンドの助成を受けた実績がある団体の採用が目を引いた。腰を据え継続した活動が評価されたものである。

助成を受けた団体の活動を披露する場として、2013年７月には活動報告会が予定されている。活動報告会には助成団体の学生が全国から一堂に会し、いくつかの団体による活動報告や全体懇親会のほか、当日は助成団体の活動をまとめた報告書も配布する予定である。

なお、第11回の活動報告会では現役学生が活動内容を紹介するだけでなく、かつて当ファンドで助成を受けながら活動を行い、卒業後も活躍を続けているＯＢ・ＯＧによるトークセッションが行われた。会場では、親睦を深めようと助成団体相互に連絡先を交換している光景があちこちで見られた。ジャンルは違えどもお互いの活動を評価・認め合い言葉を交わす姿は美しいものであった。こうした場を用意したことで若い人たちの見識･理解の幅が広がるのであれば、今後とも力になりたいと思うところである。

（波多野）

国連・NGO アカデミー・日経 GSR

国連や国際協力の場、あるいは国内で社会的課題に挑んでいる著名人を定期的にお招きする「国連・ＮＧＯアカデミー」には、今年も様々な方が私たちのために駆け付けご協力いただき、学生に刺激を与えてくださった。

【NPO 法人　森の生活（北海道)】

まず、社会起業家として知られる北海道の NPO 法人森の生活代表の奈須憲一郎氏にご講演いただいた。旭川から宗谷本線で北へ２時間、名寄駅からバスでさらに１時間の下川町は自然に恵まれた美しい街だ。ここで行われている人と人のつながりやコミュニティを大切にしながら森を守るという活動は、学生の心を打った。特に森の間伐で出てくる葉からエッセンシャルオイルを製造し、エステティックサロンで販売する等の環境ビジネスの話は新鮮だった。

名古屋出身ながら北海道に憧れ、北海道大学卒業後もかの大地に住み続ける奈須氏の人間的なスケールは大きく、今は町会議員を務めながら、東京に熱いメッセージを送り続けている。

【NPO 法人　ハタモク】

７月の講座では、「学生が社会について考えるため、様々な人と出会える身近な場所作り」を行う明治学院大学の学生有志団体 Link up と、「何のために働くのか」を気楽に真剣に語り合う場を提供する NPO 法人ハタモクとのコラボ企画を行った。

「突然ですがみなさん、社会に出ている人のリアルって見たこと、聞いたことありますか」。多くの大学生が就職活動をする現状、「大学は自由だ！人生の夏休みだ！学問以外のこともたくさん学べ！」などと言われる現状、「“つながり”を大切にしよう」などと騒がれている現状…。そんな現状の反面、実は、学生と社会とのつながりがまだまだ少ないと私たちは日々感じている。こうした状況は、学生が社会人と利害関係なく Face to Face で接する機会が少ない象徴だと考え、大学における「人生を学ぶ時間」や社会をイメージする機会をなくしてしまっているのではないか、と感じている。「社会」という言葉には様々な定義があるが、私たち Link up はあえてその定義を狭めず、その時々の色に応じて、広い社会の一片と学生がつながるためのきっかけとなる居場所作りのお手伝いをしている。

今回は多くの学生が想像しやすく、いずれ直面する「働く」に焦点を当てることになった。

今回のセッションは、①ハタモク代表理事の與良昌浩氏からのお話、②社会人と学生が混ざり５～６人グループになって自分について語る「自分ガタリ」、③働く目的について語る「ハタモク（働く目的）ガタリ」、という３本立てで行われた。

まず始めに、與良氏より、なぜこのような活動をしているのか、ハタモクを行うことが学生になぜ必要なのか、というお話をしていただき、参加者は、與良氏のお話に真剣に聞き入っていた。

そして、いよいよそれぞれのグループで話をすることとなると、先程の真剣な雰囲気とは一変。こんなにも自分の話を聞いてもらえる機会はあるようで意外とない。最初は少し戸惑っていた人も、グループのメンバーが真摯な姿勢で聞いてくれるため、思わず饒舌になる…！熱気あふれる会場は、まさに明学の白熱教室となった。また、グループでのセッションは、自分について考えるだけではなくて、相手の話を聞いたり、コメントをもらったりする事によって、新たな気づきも生まれる。参加者の表情が豊かになっているのが印象的だった。

こうして、あっという間に今回の企画は終了の時間を迎え、その後も、それぞれが話の続きをしたり、連絡先を交換したり、学生も主体的に行動する姿が見られた。ここからそれぞれの“大切な何か”につながるものが生まれてくるのだと感じる事ができる光景だった。

私たちLink upができることは本当に小さなきっかけに過ぎない。しかし、それをもとに、たくさんの想いがカタチになったら、きっと、今まで以上に素敵な明学、そして社会を作れるのではないかと思う。今後も素敵なイベントを皆と一緒に作り上げて行けるように邁進していきたいと思う。

（社会学部社会福祉学科３年　荻野真奈美）

【明治学院大学GSR研究会】

鵜殿学長に「最優秀賞」を報告する学生

2011年にボランティアセンターと日本経済新聞社と日本経済研究センターの共催で「大学生とともに考える地球の未来―アイデアコンテスト」を白金本館の10階大会議場で開催した。この時は慶応義塾大学が最優秀賞に輝き、明学は涙を飲んだが、2012年のコンテストでは、東大、一橋大など強豪校を撃破、見事、最優秀賞を獲得した。ちなみに、明学ＧＳＲ研究会は、資生堂と伊藤忠のリソースを使って、中国の農村女性をエンパワメントするプロジェクトを提案した。内容はもちろんプレゼンテーションが秀逸で、高い評価につながった。

（原田）

「ボランティアファンド学生チャレンジ賞 2012」について

明治学院大学では、大学の教育理念を実現するために公認ロゴグッズの購入を通じて社会に貢献する仕組みを作った。グッズの本体価格の 10% を積み立てて、大規模災害の被災者支援や環境保護活動に役立てようという試みが 2005 年の秋から始まった。これが「ボランティアファンド」である。ボランティアセンターは、2006 年度からこのファンドの受け入れを行い、2012 年度は、2011 年度の売上高の 10% の 722,077 円と過年度からの繰り越しを含めた額を合わせた 2,843,031 円を運用している。

本センターでは、このファンドを原資として、2007 年度に「ボランティアファンド学生チャレンジ賞（通称ボラチャレ）」を設立し、学内のボランティア団体や新しく活動を始めようとするグループによる企画の実現を支援し、これまで 36 企画に助成を行った。

2012 年度の募集テーマは、昨年同様に「明学生によるボランティア活動」とした。地域に根差した活動に加えて「ボランティアファンド」の用途として想定されてきた大規模災害の被災者支援や環境保護活動についても積極的に助成を行っている。また、2011 年度に始まった「1 Day for Others」（P41 参照）は春学期の実施が定着したことにより、同時期に開催していたボラチャレを秋学期に移行し開催を探った。応募に支障が出ないか懸念されたが、昨年度と同様に 8 団体の多様な企画内容の応募があり、改めて「ボランティアファンド」の必要性が認識された。

2012 年 10 月 20 日（土）に白金校舎にて公開審査会を実施し、一般聴衆を前に企画ごとに熱意あるプレゼンテーションが行なわれた。6 名の審査委員（ボランティアセンター推進委員の唐木富士子氏、谷口浩一氏、可部州彦氏に加えて、本学からは鵜殿学長、原田ボランティアセンター長、齋藤ボランティアセンター長補佐）による厳正な審査が行われた。続いて審査委員による審査会が開催され、応募全ての 8 企画を助成企画として選定し、総額 612,663 円を助成することで決定した。全体講評としては、今年度の活動は、利他性、先駆性に富む企画が多く、ほとんどの企画が総合得点において高い評価を得た（講評の詳細はボランティアセンター HP に掲載）。

さらに、公開審査会での一般聴衆学生のアンケート結果では、「このような場に参加して自分たちの活動の振り返りとなった」「知らない分野がたくさんあり、同じ学生として刺激を受けた」「広い視野で学生生活を送れるヒントを得た」「人に説明することの難しさを知る場となった」等の声が挙がった。

10 月 30 日には横浜校舎にて授与式を実施し、学長から受賞企画の代表者に奨励金が手渡され、受賞者は満面の笑顔で奨励金を受取り、各企画団体との交流も図ることができた。この奨励金を使用するに

あたり、企画団体はこれまで、実施計画に基づいて独自で企画実現を目指してきたが、今年度からは新しい試みとして、高い見識をもち経験豊富な推進委員のアドバイザーを配することになった。団体メンバーは推進委員の方々の指導を得る機会に恵まれ、企画内容を効果的に推し進めて充実した活動となる。また、各受賞団体は自信をもって納得のいく企画を実現してもらうことで、ボランティアファンドも生きてくる。この経験が彼らを育て、次につながり、多くの人に影響を与えることを切に期待している。なお、例年掲載の受賞団体の活動報告は時期をシフトしたため、次回発行の活動報告書に載せる予定である。（中山）

■１年間のスケジュール

【2012 年】

７月 12 日（木）・13 日（金）　説明会実施

９月 ３ 日（月）～ 10 月 10 日（水）　応募期間・書類選考

10 月 20 日（土）　審査会　公開プレゼンテーション

10 月 30 日（火）　授与式

11 月 13 日（火）　使途計画書提出締切

【2013 年】

５月中旬　中間報告会（助成団体による中間発表、ワークショップを予定）

７月上旬～中旬　最終報告会（ボラチャレ 2013 説明会と同時開催）

10 月末日　最終報告書（「ボランティアセンター報告書第 10 号（2013）」に掲載）
使途報告書の提出

■受賞団体

	団体名	企画名
1	あちょみだ	あちょみだ企画　―HIV,AIDS とはどのような病気か―
2	MGVA	MGVA パンフレット
3	「Do for Smile @東日本」プロジェクト 陸前高田チーム	「かわいい子には旅をさせよ」ツアー
4	TAZ	創（キズ）～ 3.11 から何を学ぶのか。～
5	吉里吉里国復興支援部隊	「吉里吉里から～今、伝えたいこと～」
6	JUNKO Association	子どもたちに電気を届けよう！～ LIGHTS for SMILE ～
7	TABLE FOR TWO 明学 (mgmg)	TFT ×難民支援キャンペーン　（※）
8	Link up	未来ワタシ委員会

※７はオーディエンス賞も併せて受賞　（審査委員ほか一般聴衆者の審査の結果）

以下にオーディエンス賞をとった「TFT ×難民支援キャンペーン」の応募内容を一部掲載する。

【活動実績 - TFT　明学】

2012 年 4 月から明学生協食堂 (戸塚キャンパス) にて正式に TFT メニューが導入されました。また、５月に開催された戸塚まつりではメンバー 14 人 (当時) そろってカレーを販売し､明学生や地域の方々に好評でした。これらの活動で集まった 1 食あたり 20 円は全て寄付金となりました。

TABLE FOR TWO、二人の食卓。私たちが健康的な食事をとることでその 20 円分がアフリカの子どもたちの給食（一回 20 円分でポショというものを食べます）へと変わります。このような仕組みを伝える広報活動は、食堂入口前の立て看板、食堂 2 F の掲示板、それから twitter を使い行っております。しかし現状として半分以上の明学生には、まだ TFT の存在を理解してもらえてないことが、毎月の TFT メニュー購入者数と食堂メニュー購入者数総計から推測できます。

【スケジュール】

2012/10/20 審査会　　10/22 審査結果発表

2012/11 勉強会

　難民についてと、アフリカの支援先についてメンバーが学ぶ。

　難民については支援活動団体を訪れることや、自分たちで調べることによって知識を得る。

2012/11 メニュー考案と広報活動

　世界各国のメニューを調べ、その中から 1 つ試食会で提供するメニューを選び出す。

2012/11 試作と広報活動

　Mgmg メンバーで試作を行い、メニュー内容・カロリー・栄養バランスなども調査。

2012/12 試食会　　難民料理と TFT のコラボメニューの試食会を行う。対象は明学生 100 人で、場所は生協食堂、時間はお昼休みを予定。

2013/ 1 ～ 2013/ 2　メニュー考案　広報活動

2013/ 3　ポスターの完成

　難民支援× TFT の大きなポスター　食堂や 10 号館ラウンジほかに掲載したい。

2013/ 3 末　中間報告

2013/ 4　シンポジウムの開催　　新入生歓迎も含め、これまでの活動を明学生に報告する。

2013/ 4　8 号館ラウンジカフェとのコラボ。調べたメニューをいくつか見せて､メニュー販売の提案。

2013/ 5 or 6　8 号館ラウンジカフェでの提供

2013/ 6 or 7　生協食堂にて TFT ×難民支援 week の開始

　1 か月をまるごと使って、毎週上のメニューの提供をする。

2013/ 7　活動報告会　　2013/ 9 末　奨励金使途報告書の提出　　2013/10 末　活動報告書の提出